

2010年7月5日

ニューファーム社との協力  
ーグリホサート剤の抵抗性雑草対策についてー

住友化学は、ニューファーム社と、遺伝子組換え作物における抵抗性雑草問題の解決に向けて、新しい混合除草剤の開発ならびにマーケティングを共同で検討することに関する議論を開始いたしました。

遺伝子組換え作物の栽培におけるグリホサート (glyphosate) の使用増加により、グリホサート剤に対して抵抗性を有する雑草が出現し、その雑草防除効果の低下を引き起こしています。このグリホサート剤に対する抵抗性雑草の事例は、大豆、綿などの作物において米国を中心に報告されています。

住友化学はさきごろ、ニューファーム社の発行済普通株式の 20%を取得し同社との間で作物保護ビジネスに関する共同研究開発や、販売面等での包括的な事業提携について具体的な検討を進めているところです。両社はこのほど南北アメリカでの抵抗性雑草問題に関して遺伝子組換え作物における雑草防除体系の安定化を実現するために、共同で以下 1-3 の取り組みを行うことの検討を開始いたしました。

住友化学は、これまでグリホサート抵抗性雑草対策プログラムにおいて重要な役割を果たしうる除草剤開発・マーケティングの知識や経験を培ってきました。ニューファーム社もグリホサート抵抗性雑草対策プログラムへの重要な貢献の可能性のある優位性をいくつかの除草剤において有しています。

1. 報告されているグリホサート抵抗性雑草に幅広く有効で、既に米国で高い使用実績をあげている当社のフルミオキサジン、ニューファーム社のフェノキシ系除草剤と、グリホサート剤との効率的な使用方法の提案、普及推進に向けた研究開発
2. 複合作用機作を有する多種混合製剤の開発による、南北アメリカに適合した抵抗性対策除草剤製品の品揃えの強化
3. グリホサート抵抗性雑草を含むさまざまな難防除雑草に有効なことが確認されている当社の開発パイプラインにある開発候補化合物の評価を加速し、フルミオキサジン等の既存成分とは作用機構が異なる新規除草剤を開発すること

住友化学は、今回の取り組みを通じ、遺伝子組換え作物における雑草防除体系の安定化を実現するとともに、ニューファーム社とのシナジーを追求し、さらなる作物保護ビジネスの強化・拡大につなげてまいります。

以上